

令和2年6月5日

高松市長 大西秀人様

高松市香南地区地域審議会
会長 赤松千壽



合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する
意見の取りまとめについて（回答）

梅雨の候 貴職におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃は、本地域審議会の運営等につきまして、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、令和2年5月18日付け高地振第56号により依頼のありました合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する意見の取りまとめについて、下記のとおり意見集約を図りましたので回答いたします。

なお、この意見は、今後の香南町のまちづくりに対する委員全員の思いが込められていることから、地域審議会が今年度末をもって設置期間が満了することを踏まえた、誠実な御対応を強くお願いいたします。

記

1 提出書類

合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する意見について

合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
1	建設計画に対する評価	<p>平成18年1月の合併から15年目を迎え、建設計画第3章に掲げられた重点取組事項、いわゆる建設計画搭載事業が概ね完了していることから、あたかも建設計画が実現されたかのように表現されていることに違和感を持っています。</p> <p>建設計画では、第2章に、地域の役割や機能、まちづくりの課題、対応の基本方針がまとめられており、特に、香南地域は、「田園環境と空港を生かした快適生活、新産業創造交流ゾーン」を新たな地域像として位置づけています。</p> <p>本来、建設計画の計画期間が終了する前には、この地域像に対する進捗状況等を調査・検証した上で、計画に対する評価が行われるべきだと強く感じています。</p> <p>計画期間の途中であれば、事業の進捗率を一つの指標とすることは仕方がないことだと考えますが、建設計画の進捗状況等を審議・検討する地域審議会の設置期間が満了しようとしている中、現在の香南地域が、合併前の地域住民の願いとして取りまとめられた地域像にどれだけ近づいていると考えているのか、建設計画に対する評価とともにお示しください。</p> <p>なお、建設計画が5年間延長されるということは、有利な財源を確保するための手段として建設計画の第5章に掲げる財政計画だけが、延長されたということではないことを改めて確認いたします。</p>
2	コミュニティ協議会によるまちづくり	<p>建設計画の実現のため設置された地域審議会も今年度末で終了する方針が出され、今後は、本格的にコミュニティ協議会が中心となって、まちづくりを進めることとなります。</p> <p>現在、香南地区コミュニティ協議会でも、まちづくりの基本方針や目標、具体的な取組などを取りまとめたコミュニティプランに基づき、さまざまな活動を進めているところです。</p> <p>しかしながら、香南地区においては、建設計画にも搭載されている地域高規格道路、三木綾川バイパスルート（仮称）の整備だけでなく、香南小学校の改築に伴う広大な跡地利用など、地域の将来に大きく変化をもたらす課題が浮き彫りとなっています。</p> <p>市当局は、このような地域全体の在り方が変わるような課題に対して、どのような進め方をすべきとお考えなのかお示しください。</p>

合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
3	香南町の道路ネットワークと連携軸の強化	<p>地域高規格道路（空港連絡道路）の整備が本格的に開始され、この道路に関する全体像が、地権者以外の町民にも明らかになってきています。この地域高規格道路は、高松西インターチェンジから高松空港への定時性・速達性のため整備されているもので、建設計画においては、「四国の空の玄関としての特性を生かした活気のあるまち」を実現する施策の一つとして掲げられています。</p> <p>しかしながら、現在の整備状況を見てみると、良好な田園地帯を形成する圃場を始め、こども園、道の駅などの公共施設といった香南地区のまちづくりの基盤となる地域資源の利便性を著しく阻害する可能性が出てきています。</p> <p>大規模災害時の対応やインバウンド観光などのため、地域高規格道路は必要なものと考えていますが、周辺の住民が利用する身近な農道や市道といった生活道路との連結等も不透明な状態では、県民全体のために香南地区が蔑ろにされていくのではないかと不安に感じてしまいます。</p> <p>このような中、県道三木綾川バイパスルート（仮称）の一部とも考えられる市道下川原北線及び城渡吉光線の供用開始も間近に迫り、香南町内における道路ネットワークは、今後10年で大きく変わろうとしています。</p> <p>現在、進められている高規格道路の整備に伴う県道三木綾川線バイパスルートの必要性、それに伴う市道の整備など、今後の香南町の道路ネットワークについて、どのようなお考えなのか、都市計画マスタープランにおける南部地域のまちづくり施策の考えも踏まえお示してください。</p>
4	都市計画マスタープラン及び立地適正化計画に基づくまちづくり	<p>平成30年3月に策定された高松市立地適正化計画において、香南地区は、香南コミュニティセンターから道の駅周辺を都市機能誘導区域とし、その区域の西側を居住誘導区域としています。</p> <p>この地域は、高規格道路（空港連絡道路）が県道三木綾川線で立体交差することで香南町全体を東西に分断する可能性があるとともに、香南小学校の改築が進めば、広大な校地が空き地となるなど、今後、大きな課題が残る地域でもあります。</p> <p>建設計画が延長されたとしても、長期的に目指すべき地域像を示すものは、コミュニティプランと都市計画マスタープラン、立地適正化計画が中心となるものだと考えています。</p> <p>特に都市計画マスタープランの南部地域のまちづくり施策においては、連携軸の強化として、「地域高規格道路の整備」、「県道三木綾川バイパスルート（仮称）の検討」に加えて、「地区のルールづくり（地区計画）による良好な地区の魅力づくり」が掲げられています。</p> <p>現在の香南町のように、10年20年後に禍根を残すような問題が発生している地域で、目指すべき地域像は、どこが主体的に考えていくべきだとお考えなのかお示してください。</p> <p>これは、地域コミュニティ協議会が行政への協力を放棄するという趣旨ではなく、実際に、県・市の施策や事業が混在する地域で、コミュニティ協議会や市当局がどのような立場で対応していくのかお伺いしているものです。</p>

合併地区のまちづくりに係る実施事業に関する意見について

地区名：香南地区

番号	項目	意見の内容
5	香南小学校の改築	<p>香南小学校の改築は建設計画搭載事業ではないものの老朽化等を勘案して、香南中学校の敷地内で改築を進める方針が出されたことに感謝しています。</p> <p>しかしながら、香南小学校周辺は、香南コミュニティセンター・香南支所、香南中学校、月見ヶ原公園、香南庭球場、香南体育館、道の駅が概ね200メートルの範囲に集中する香南地区の中心的地域ともいえる場所で、立地適正化計画においても都市機能誘導区域に指定されています。</p> <p>そのような場所に、あえて空き地を作つてまで、改築場所を香南中学校とする明確な根拠をお示してください。</p> <p>また、景気が低迷期に入っている現在、約1.7haの跡地を簡単に売却できないことが容易に想定されますが、学校跡地の利活用に関するお考えがあるなら、お示してください。</p>
6	地域行政組織の再編	<p>平成27年2月に策定された高松市地域行政組織再編計画に基づき、再編の第1段階とも言える総合センターが、平成29年1月に設置されて、約3年半が経過しました。この間、香南支所においては、従来からの窓口サービスを継続する激変緩和措置を講じていただいております、市民サービスの低下は免れているところです。</p> <p>この地域再編計画では、仏生山地区、山田地区に新たな総合センターが整備されることに併せて、「本庁ー総合センターー地区センター」の3層構造が完成されるもので、遅くとも2・3年後には本格的な再編が行われることだと認識しています。</p> <p>しかしながら、これまでの地域審議会において要望してきたとおり、香南支所の利用者が周辺地域にも拡大している地域特性等も考慮し、客観的にみて地域の誰もが激変緩和措置の終了もやむを得ないと思えるような状態に至るまで、激変緩和措置を継続していただくよう切に要望します。</p> <p>なお、市町村の合併の特例に関する法律に基づく諮問機関である地域審議会の設置期間が終了してすぐに、地区センターへの移行への協議が始まることは、合併協議時から続く信頼関係を著しく傷つけるものであることを敢えて申し上げます。</p>